

富山高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	歴史Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0034		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	商船学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『新詳世界史B』帝国書院、『最新世界史図説 タベストリー』帝国書院					
担当教員	市嶋 聡之					
到達目標						
西欧史を中心とした学習を通じて、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかを理解する。教養としての知識に加え、歴史的事象・社会全体の見方・考え方を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	西洋史における重要な出来事や人物に関して、詳細かつ正確な知識を習得している。		西洋史における重要な出来事や人物に関して、教養として最低限の基本的な知識を習得している。		西洋史における重要な出来事や人物に関して、一般的・常識的な知識すら習得できていない。	
評価項目2	西洋史における主要な事象について、詳細な内容を知り、その歴史的意義を正確に理解している。		西洋史における主要な事象について、概要を概ね理解している。		西洋史における主要な事象について、基本的な知識と理解が不十分である。	
評価項目3	西洋史の時系列的な流れと、西洋史の世界史全体における関係や位置づけを正確に理解している。		西洋史の時系列的な流れと、西洋史の世界史全体における関係や位置づけを概ね理解している。		西洋史の時系列的な流れと、西洋史の世界史全体における関係や位置づけを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	西洋（西欧）史を中軸に据え、日本や諸地域も包摂していった「世界の一体化」という世界史の大きな流れを理解できるようになることが基本目標である。世界的な分業体制（近代世界システム）が展開されて成立した現代社会の諸課題を考察するために必要な素材（政治・経済・社会・文化のありよう）を、総合的かつ具体的に学習する。グローバル化が進む国際社会の中で活躍していくために必要な教養としての歴史知識も修得する。					
授業の進め方・方法	教員単独による講義					
注意点	定期試験の成績を主な評価対象とする。中間試験と期末試験の総合得点（平均点）で60点以上を合格基準とする。評価が60点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を60点とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		年間計画とシラバスの説明 科目全体の導入「歴史を学ぶ意味」、「ヨーロッパによる世界の一体化と現代」	
		2週	ヨーロッパ史の源流：ギリシア世界		ヘレニズム時代（ギリシア世界の変容と拡大）	
		3週	ヨーロッパ史の源流：ローマ世界Ⅰ		ローマ共和政	
		4週	ヨーロッパ史の源流：ローマ世界Ⅱ		ローマの発展	
		5週	ヨーロッパ史の源流：ローマ世界Ⅲ		ローマの地中海世界征服	
		6週	ヨーロッパ史の源流：ローマ世界Ⅳ		内乱の一世紀、ローマ帝国の成立	
		7週	ヨーロッパ史の源流：ローマ世界Ⅴ		ローマ帝国の繁栄（ローマの平和）	
		8週	前期中間考査		1～7回の学習内容の確認	
	2ndQ	9週	ヨーロッパ史の源流：ローマ世界Ⅵ		ローマ帝国の動揺と分裂	
		10週	ヨーロッパ史の源流：ローマ世界Ⅶ		キリスト教の成立と発展	
		11週	中世ヨーロッパ概説		中世に生じた変化と、ヨーロッパ各国の動向	
		12週	近代ヨーロッパの成立Ⅰ		大航海時代	
		13週	近代ヨーロッパの成立Ⅱ		ルネサンス	
		14週	近代ヨーロッパの成立Ⅲ		宗教改革	
		15週	期末試験		中間試験以降の学習内容の確認	
		16週	補講・成績評価・確認		成績の評価と確認	
後期	3rdQ	1週	ヨーロッパ主権国家体制の展開Ⅰ		スペインの覇権、ハプスブルク家の繁栄	
		2週	ヨーロッパ主権国家体制の展開Ⅱ		オランダとイギリスの台頭、フランスにおける王権強化	
		3週	ヨーロッパ主権国家体制の展開Ⅲ		17世紀の危機と三十年戦争、西欧国家体系の成立	
		4週	ヨーロッパ主権国家体制の展開Ⅳ		イギリス革命	
		5週	ヨーロッパ主権国家体制の展開Ⅴ		ヨーロッパ諸国の海外進出	
		6週	欧米における近代社会の成長Ⅰ		産業革命と資本主義体制の成立	
		7週	欧米における近代社会の成長Ⅱ		アメリカ独立革命	
		8週	後期中間試験		16～23回の学習内容の確認	
	4thQ	9週	欧米における近代社会の成長Ⅲ		フランス革命①アンシャン＝レژیームから立憲君主政へ	
		10週	欧米における近代社会の成長Ⅳ		フランス革命②共和政の成立とジャコバン独裁	
		11週	欧米における近代社会の成長Ⅴ		ナポレオンによる帝政とヨーロッパ制覇	
		12週	欧米における近代国民国家の発展Ⅰ		ウィーン体制とヨーロッパの再編、欧米列強による世界の分割支配	
		13週	欧米における近代国民国家の発展Ⅱ		帝国主義の成立と欧米列強の対立	

		14週	欧米における近代国民国家の発展Ⅲ	二つの世界大戦
		15週	学年末試験	中間試験以降の学習の確認
		16週	補講・成績評価・確認	成績の評価と確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20